

令和2年度
印西市民アカデミーだより
 ぶらす
 第12号

印西の石造物 -その6-

印西市内で三番目に多いのが「〇〇山」と刻まれた山岳信仰に関する塔です。地域住民で講を組み参拝の記念として塔を造立しました。山岳信仰は、山を神聖視し、崇拜の対象とする信仰です。日本において、山岳信仰が、日本古来の古神道や伝来してきた仏教(天台宗や真言宗などの密教)への信仰と結びついて「修験道(しゅげんどう)」とされる独自の宗教が生まれました。修験道は、修行により吸収した山の霊力を人々に授けるというもので、役小角(えんのおづぬ)が創始しました。現在も修行僧(修験者・山伏)が修行を行っています。造立されたこれらの塔を調べると当時の民衆の信仰の様子がわかります。



月山・羽黒山・湯殿山

日本三大修験山の一つである出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)の参拝を記念した塔。市内で一番多く見かける。現在も講を組んで参拝する地域がある。



富士山・大山・大雄山

三つの霊山である富士山(浅間神社・大山(阿夫利神社)・大雄山(最乗寺)の三か所の参拝を記念した塔。浅間信仰と大山信仰の神社と天狗伝説の寺を巡った。



蠶影山

筑波山の南側にある蠶影(かげ)神社の参拝を記念した塔。この神社には金色姫伝説が伝わり、古くから養蚕の神として崇められ、明治・大正期に参拝客で賑わった。



富士登山記念

富士信仰は、富士山そのものを神と見立て崇拜の対象としています。富士山の神霊と考えられている「浅間大神(仙元大神)」は、浅間神社に祀られている。